

どうぶつこうえんニコース



Topics

*トピックス

キリン放飼場のヒマワリ畑



まこと東幼稚園



みつわ台幼稚園



千葉聖心幼稚園

昨年、動物公園の草原ゾーンにヒマワリ畑が登場しました。場所は、キリン放飼場でキリンの背景となる小高い山の上部に設置されました。

今年も同じ場所に同様の畑をつくることにしました。ヒマワリ畑をつくる準備作業として、耕耘作業を行い、5月12日(金)、15日(月)、22日(月)の3日間に分けて、近隣幼稚園(まこと東幼稚園、みつわ台幼稚園、千葉聖心幼稚園)の園児たち約200名の手を借りて種まきを行いました。

参加した園児たちは年長・年中さんで、渡されたヒマワリの種を大事に持ちながら土に穴を開け、一粒ずつ種をまいてくれました。

ワンポイント情報

ヒマワリの花は、コロンブスの新大陸発見の後にヨーロッパに伝えられたようです。その姿から“インディアンの太陽”とか“ペルーの黄金の花”と呼ばれ、特にペルーではとても大切にされたそうです。

今回まいたヒマワリは、大きな花を咲かせる「ロシアひまわり」という品種で、草丈は2m以上にもなります。花も大きく、古くから採油用として改良・栽培されてきたようです。

成田 光利 (Mitsutoshi Narita)

目次

CONTENTS

表紙【フサオマキザル】	①
トピックス【キリン放飼場のヒマワリ畑】	②
特集 子ども動物園より(5)	③
特集 パードウィーク講演会	④~⑤
動物公園の植物⑧【イヌシデ】	⑥
飼育よもやま話【おはあちゃんシマウマのヒマワリ】	⑥
動物公園日誌から【'06.1/1~'06.3/31】	⑦
裏表紙【フンポルトペンギン(親子)】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 フサオマキザル

フサオマキザルは新世界ザルに属しており、その特徴は鼻の幅が広いことと、頬袋がないことなどがあげられる。南アメリカのウルグアイとチリを除くアンデス山脈以東に分布し、比較的湿気が高く標高の高い熱帯林を好み、多くの植物性食物と大きい果実を好んで食べる。さらにカエル、トカゲや小さなコウモリまでも食べる。3~15頭の群れを形成して行動している。また、固い木の実を割るのに石を使うなど、さまざまな道具を使うサルとしても有名である。雌雄とも7歳くらいで性成熟を迎える。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成18年5月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 31.May.2006

哺乳類	67種	402点	両生類	0種	0点
鳥類	71種	294点	魚類	0種	0点
爬虫類	6種	31点	総計	144種	727点



特集



子ども動物園より(5)



小学校や保育園、幼稚園など、団体でご来園の皆さんにご利用いただいている、教材のご紹介しましょう。大きく分けて「紙芝居」「写真絵本」「お遊びセット」(以上は貸し出し教材)「子ども動物園ガイドブック」「ワークシート」(以上は返却不要)があります。



紙芝居7種類と 写真絵本1種類

① テンジクネズミとカイウサギのびまんぼなし

ウサギにしっぽはあるけれど、テンジクネズミにはないとか、あかちゃんがあかはだかで生まれるのはどっちだとか、よくわかるお話です。

② ヤギのおはなし

どうして紙やおかしをあげてはいけないのか、それをお話の中で理解してもらうための紙芝居です。

③ アンデスのモルモット

テンジクネズミのふるさと、アンデスではどのように飼われているのか、紹介していきます。

④ ヒツジたちの一年

刈った毛からどのように毛糸やほかの製品になるのか、牧羊犬チャッピーが紹介します。

⑤ 草を食べる動物たち

動物園には草を食べる動物がたくさんいます。1日どれくらい草を食べるのでしょうか。

⑥ ウサギのおはなし

カイウサギの先祖はアナウサギですが、なぜ「アナウサギ」という名がついたのでしょうか。

⑦ いけいけ! アフリカ探検隊

男の子がアフリカに旅をして、いろいろな動物たちに出会うというストーリーです。

⑧ ハツカネズミとながみくろうよ!

写真絵本です。どんなふうにながみくろうよにふれたらよいか、解説しています。



お遊びセット

アジアゾウの足型、カンガルーの足型、キリンのお面(舌がのびます)、ダチョウの卵の実物大シルエット、ピグミーマモセットの実物大シルエットなど、パッキングされています。みんなで楽しく使ってみてください。



ワークシート

動物の観察に使える行動観察シート、スケッチシート、ぬりえ、クイズなど、表は実際に使う子ども向けに、裏は引率の先生向けの解説書となっています。



子ども動物園ガイドブック

24ページ立ての動物紹介や家畜の歴史など、引率の先生向けにつくられています。巻末には、主な動物のお乳の数や場所、お乳の飲み方など、動物について子どもたちが知りたいと思っていることも紹介されています。



貸し出しの手続き



教材に関するお問い合わせは、動物公園飼育課子ども動物園まで。
動物公園への下見(予察)のときに、お持ち帰りになり、遠足当日お返しいただくのがもっとも利用しやすいと思います。在庫がある限り、お貸ししています。遠足が雨天中止になった場合は、宅急便等で送っていただいています。



バードウィーク

講習会

私たちが身近に目にする野生動物は、なんといっても昆虫や鳥が多いと思います。哺乳類、例えばサルやシカなど野生のものに出会ったときの感動は大きいのですが、そう簡単に出会えるものではありません。その点、鳥は庭や公園、近くの川や池などで毎日見ることができます（学者さんによっても違いますが、鳥は世界で約9,000種、そのうち日本で見れるのは550種くらいだそうです）。

私が動物を好きになったのも、子供のころ身近にたくさんの鳥がいて、罾をかけて捕まえたり、巣を探して雛を育てたりして遊んだからだと思います。もっとも今の時代にこんなことをしたら大変ですが。

バードウィークにちなみ、こんな身近にいる鳥のことを少しでもみなさんに知ってもらえたらということでお話したいと思います。

そもそも鳥は、みなさんもお存知のように小型の爬虫類から進化したと考えられています。小型の爬虫類の鱗の一部が保温のために羽毛に変わって体が軽くなり、さらに進化して前肢が翼になって飛べるようになったのです。鳥の最大の特徴は羽毛で被われ、翼があって飛べることです（例外もありますが）。

図 1

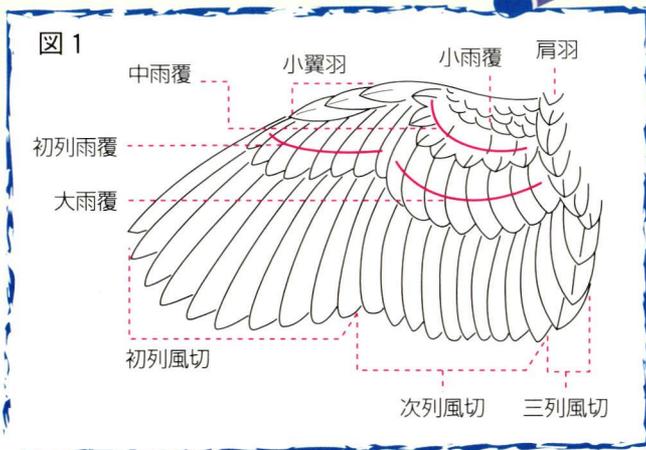
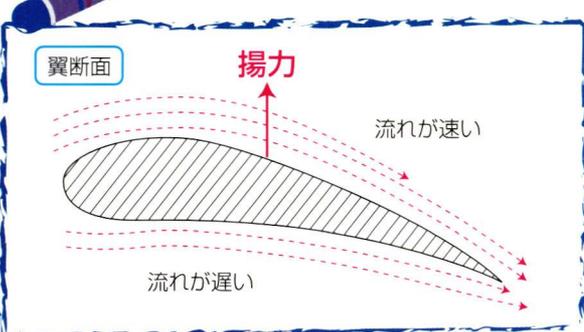


図 2



そこで翼についてお話したいと思います。

翼は図1のように各部分に分けられますが、翼全体として、図2のように飛ぶための揚力を生みだし、初列風切羽で推進力を生みだします。ここで簡単な実験をしてみましょう。20cmぐらいの長さの紙テープを唇の下にあて、強く息を吹き出してみましょ。垂れていた紙テープは上に浮き上がってきます。これは強く息を吹き出すことにより紙の上の部分の圧力が低下して、下からの圧力に押されて紙が浮き上がったのです。この力を揚力といいます。翼はその形状から揚力を生みだすのです。

また鳥の特徴として、飛ぶために体が軽くできています。重い歯とそれをささえる顎は無くなって嘴となり、骨は含気骨となっています。また翼となった前肢の代わりに、多くの頸椎でできたよく動く頸と採餌に適した形の嘴とで餌を採ります。

さらに鳥は肺機能が良く、特に高所での機能に優れているため、ツルが何千mもあるヒマラヤ山脈を越えたり、コンドルがアンデス山脈の上空を飛べるのです。

鳥の持つさまざまな能力をご紹介しましたが、次に動物公園で見ることができる鳥たちをご紹介します。

メジロ

動物公園でも1年中見られ、ツバキやサクラの花の蜜を吸ったりしています。春の繁殖期以外は10羽～30羽の群れで生活していて、シジュウカラやコゲラ、エナガなどと混群をつくっています。さえずりは体に似合わず大きな声で、特に高音がきれいです。園内でも繁殖していて、巣は木の枝にクモの糸などでうまく吊り下げてつくります。

エナガ

可愛いという表現がピッタリの小さくて尾が長い小鳥です。いつも一定のメンバーで生活し、餌は小さい昆虫やクモ、アブラムシ、樹液などで、巣はつぼ状の凝ったつくりで表面はコケなどをクモの糸で固めています。つがいになれなかった個体などがヘルパーとして育雛を手伝うことが知られています。

シジュウカラ

カラ類ではもっとも普通に見られ、胸にネクタイをしているような模様があるのが特徴です。成鳥は一定の縄張り^縄で生活していますが、若鳥は群れで生活し、よくメジロなどと混群をつくります。園内でも繁殖し、放飼場の石垣の隙間などに営巣しています。

ヒヨドリ

1年中、公園や庭先で見られる鳥で（昔は違ったが）、動物公園でも「ピーヨ」、「ピーヨ」と大きな声で鳴いているのが見られます。庭の餌台にもすぐやってくる鳥で、ミカンやジュースが大好きです。花粉や種子の運搬者としても重要な役割をしています。

コゲラ

日本に生息するキツツキの仲間ではもっとも小さく、オスとメスがいつも連れ立って行動しています。シジュウカラなどと混群をつくりませんが、少し遅れて後からついていく行動をとります。最近は都市の公園などでも繁殖し、かつてワオキツネザルの放飼場の止まり木に穴をあけ巣をつくったことがありました。

キジバト

昔はヤマバトともいって里山などに多くいましたが、今では都市の公園などに普通に見られます。ヒヨドリと同じく1960年代後半ごろから都市にも住みつき始め、11月ごろまで繁殖しています。細い木の枝などで一見雑な巣をつくりませんが、200本近い枝が使われています。

カルガモ

日本で一年中見られる唯一のカモで、他のカモ類と違ってオス、メス同じ羽の色をしています。動物公園の大池にも一年中住みついでいて繁殖もしています。以前、タンチョウが営巣していた近くで繁殖したときは、警戒心が強いタンチョウのおかげで雛がカラスに襲われず、無事多くの雛が育ったことがありました。

そのほかムクドリ、スズメ、カイツブリ、カワセミ、ハシブトガラス、ハシボソガラスなどまだまだご紹介したいのですが時間もきましたので終わらせていただきます。バードウィークを機会にぜひ鳥たちに関心をもっといただければ幸いです。

千葉市動物公園 前園長 秦 舜二 (Shunji Hata)





動物公園の植物…②⑧

The plants in the Zoological park

イヌシデ (ソロノキ)【犬四手】

(*Carpinus tschonoskii*)



イヌシデは、クマシデ属の落葉高木で半日陰から陽がたくさんあたる適潤な土地を好みますが、容易に植栽ができ、さほど土地をえらびません。移植は容易で、病虫害はなく成長が早く、萌芽力が強く^{ほうがりよく}剪定に耐えますが、強風や潮風に弱いです。動物公園には700本ほど植栽してあります。高さは20mに成長し、樹皮は灰白色で薄い縦縞^{たてしま}があり、幹肌は雑木林の中でも目を引き、上品で美しい木です。ケヤキ・サクラのように目立つ木ではありませんが、湾曲した枝や幹のウロ、細かい小枝が自然樹らしさをかもしだしており、動物公園では目立たない場所に植栽してあります。

春の芽吹きは美しく、葉はさほど大きくなく、まとまったかわいい葉となっています。花は白色で垂れ下がり、12~15の花は一筋状に咲き、早春の園内では目立ちますが、今は大木なので、花の時期は上を見てください。夏のこもれ日と園内を通り抜ける風のさわやかさ、秋には黄色から赤茶色に紅葉し、冬には木立の優美な印象を与えてくれます。イヌシデは周辺の木々に合わせ自在な樹形となるのも特徴です。分布は本州（岩手県以南）、四国、九州です。

この木のもつ樹形等の美しさから、公園の植栽樹木として千葉市内の公園に結構植えてありますので、訪れる機会がありましたら、この木を見てあげてください。

染谷 正仁 (Masahito Someya)



飼育よもやま話

おばあちゃんシマウマのヒマワリ

ハートマンヤマシマウマのヒマワリは、1988年に他の2頭のシマウマと一緒に来園しました。2次開園（昭和63年4月20日）時に、アミメキリンと同じ展示場に展示を始めました。ヒマワリは当時からおとなしく、キリンと一緒に展示場にいましたが、他のシマウマ2頭はキリンを追いまわしてしまうため別の展示場に分けられていることもあり、キリンの中にぼつんと1頭でいることもありました。他のシマウマがいなくても何も気にする様子もなく、展示場でキリンのじゃまにならない場所で静かにしています。時には夕方の動物収容時、キリンの部屋に入ってキリンのおこぼれの青草を食べていることもあります。6年程前からキリンと折り合いの悪いシマウマもいなくなり、1頭でキリンと仲良くすごしています。

ヒマワリは18年間で2頭の子どもを出産し、育て、今までにこれといったトラブルも起こさずにきています。今年で23歳（1983年3月19日生）になり、年をとってしまい、冬になると後足を引きずって歩くこともあり、展示場内の日溜まりで横になっています。夏には日陰でじっとしています。部屋の中では柵の間から顔を出して、私や他の飼育係にも顔をさわらせてくれます。こんなおとなしく、やさしいヒマワリには長生きをしてもらいたいと思っています。

ハートマンヤマシマウマは、アフリカのアンゴラから南西アフリカの西海岸に沿った山地だけに生息し、大変数の少ないシマウマの一種で、日本の動物園でも15頭ほどしか飼育されていません。

鈴木 克典 (Katsunori Suzuki)





動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'06年1月1日~'06年3月31日

- 1月1日 エミュウ 産卵 (1卵)
- 1月6日 ケープペンギン 産卵
- 1月8日 カンムリバト 営巢中
レッサーパンダ (雄) よく鳴いている
ゴリラ (モモタロウ) 欠けていた上顎前歯、抜けていた
バードウォッチング 開催
- 1月9日 レッサーパンダ 雄が雌を追尾するが雌は逃げ回る
- 1月10日 ハシビロコウ (4羽) 体重測定
ケープペンギン 翼帯装着
- 1月11日 レッサーパンダ 追尾 雌はよく鳴いている
- 1月16日 レッサーパンダ マウントが見られる
レッサーパンダ放飼場のケヤキ、枝を剪定する
アメリカビーバー、ハゴロモツル、オシドリ、クビワコガモ、
ツクシガモ、ヒゲゴシキドリ 新着
ラマ 朝元気なく加温する 夕方には元気になる
- 1月18日 エリマキキツネザル (雌) 夕方元気なく入院
レッサーパンダ マウントが見られる
- 1月19日 エリマキキツネザル (雌) 死亡
オグロマーモセット (2頭) 繁殖
オオカンガルー (新着 雌) 他の群と一緒にする
- 1月21日 ダチョウ (雄) カラスの被害によりパドックに隔離する
- 1月25日 ケープペンギン 巣箱より雛の鳴き声らしき声が聞こえる
雌、餌を食べに来ない
カビバラ マウントが見られる
カンムリバト 営巢 (産卵したと思われる)
- 1月27日 レッサーパンダ マウントが見られる
- 1月28日 オオカンガルー (仔) 室内で袋から出て母親の前に立つ
- 1月30日 アメリカビーバー、オシドリ、ツクシガモ、ヒゲゴシキドリ、
ハゴロモツル 検疫明け
- 2月2日 プレーリードッグ (雄、雌) 新着
- 2月6日 クロザル (雌) 性皮腫脹
ヘビクイワシ 産卵
カンムリバト 巣箱が壊れ、卵を放棄したため人工に切り換え
- 2月10日 エリマキキツネザル 交尾
- 2月13日 ヘビクイワシ 採卵 (2卵)
クビワコガモ バードホールで展示
- 2月14日 プレーリードッグ (雄、雌) 検疫明け
シタツンガ (母仔) 通路に放飼する
- 2月18日 ショウジョウトキ (雄1羽、雌2羽) 新着



- 2月20日 フタユビナマケモノ (雌) バードホールへ移動
- 2月26日 カンムリバト 孵化
- 2月27日 シタツンガ 3頭一緒に放飼場に出す
オジロワシ 産卵
イヌワシ 産卵
- 2月28日 レッサーパンダ (雄、雌) 体重測定 (雄:6.5kg、雌:6.7kg)
フタユビナマケモノ (雌) 体重測定 (4.7kg)
- 3月1日 ホンドザル 発情行動が見られる
- 3月2日 フンボルトペンギン 産卵 (No.5×No.18)
- 3月3日 フンボルトペンギン 産卵 (No.21×No.26)
ショウジョウトキ 検疫明け

- 3月4日 カンムリバト (雛) 死亡
フンボルトペンギン (No.5×No.18) 産卵 (2卵目)
- 3月5日 ケープペンギン 雄 (白) が雄 (青) を攻撃する
- 3月6日 コサンケイ 産卵
- 3月7日 ケープペンギン (雛) 体重測定 (890g)
- 3月8日 ベニヒロフラミンゴ (5羽) 新着
- 3月9日 サル山、止まり木用の丸太設置
- 3月10日 パタスザル (雄) 尾のつけ根に咬み傷があるため、ケージに隔離
ヘビクイワシ 産卵
コサンケイ 産卵
- 3月13日 パカとコアリクイの展示場を変更する
フンボルトペンギン 産卵
コサンケイ 産卵
ヘビクイワシ 産卵 朝夕に抱卵見られる
レッサーパンダ (雄、雌) 体重測定 (雄:6.4kg、雌:6.8kg)



- 3月14日 ケープペンギン (雛) 体重測定 (1.68kg)
フンボルトペンギンの卵 1卵は破卵、1卵は無精卵
エミュウ (雄2羽) 富士サファリパークへ搬出
コサンケイ 産卵
- 3月15日 コサンケイ 産卵
セキショクヤケイ 産卵
- 3月17日 フサオマキザル 繁殖
ヘビクイワシ 人工孵化
- 3月18日 コサンケイ 産卵
セキショクヤケイ 産卵
大人ができる飼育体験
ヘビクイワシ 産卵
- 3月19日 ベニヒロフラミンゴ (5羽) 検疫明け
- 3月21日 コサンケイ 産卵
セキショクヤケイ 産卵
ヒロハシサギ 産卵
Zooクイズラリー 開催
- 3月22日 コサンケイ 産卵
- 3月23日 ヒロハシサギ 採卵
- 3月24日 ヘビクイワシ (雛) 死亡
- 3月28日 アメリカビーバー (雌) 死亡
- 3月29日 アルダブラゾウガメ (1頭)、ケープペンギン (2羽)、ベニコ
ンゴウインコ (2羽)、ルリコンゴウインコ (5羽) 新着
- 3月30日 コガタフラミンゴ (6羽) 新着
アジアスイギュー (雄) 死亡
- 3月31日 フタコブラクダ (1頭) 新着

浅野 洋之 (Hiroyuki Asano)

編集後記

.....

やわらかな初夏の日の下、子供たちの歓声が聞こえてきます。毎年この時期の動物公園の風物詩です。しかも去年の末に科学館事務室の隣が授乳室となり、乳幼児の声がより近くで聞こえるようになり、合計特殊出生率1.25という少子化の影響など現実感がわいてきません。初夏は動物園にとっては出産の時期で、サル類や鳥達も子育ての時期です。しかも、当園にとって初めてとなるレッサーパンダの仔が産まれたとのニュースも入ってきました。子供たちの声が絶えない動物公園であってほしいものです。

宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)



フンボルトペンギン（親子）



Information

平成18年8月・9月の 催し物一覧

- ★ 8月13日㊦ 紙芝居会
- ★ 8月26日㊦ Zooキッズデー（事前申込制）
- ★ 9月10日㊦ ワンポイントウォッチング（ゴリラ）
- ★ 9月23日㊦ 折り紙教室
- ★ 9月24日㊦ ワンポイントウォッチング（マーモセット）

レッサーパンダの風太に二世誕生 （6月2日午後5時45分）

どうぶつこうえんニュース第60号
平成18年7月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園・財千葉市動物公園協会〔総合案内〕 ☎ 043-252-1111
〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-City Japan.